



佐々木賞

「イノベーションの活力は『地方』にあり」グループ



茂木賞

「地銀を無視して地方創生あらず」グループ



指導教授賞

「これからの医療～私、失敗しないので～」グループ

## 私たちが担う「ポスト平成」

# ジュニア・アカデミア4期生が政策提言 大賞は「イノベーションの活力は『地方』にあり」グループが受賞



学習指導要領に「関心、発想を具現化する力の養成」を加えて、子供たちに社会に良い変化を与える行動を促したい!

「誰もイノベーション人材になれる社会」グループ



財政再建には、政治・行政・メディアそれぞれが国民が建設的な議論が出来る環境を作るべき!

「財政再建と世論」グループ



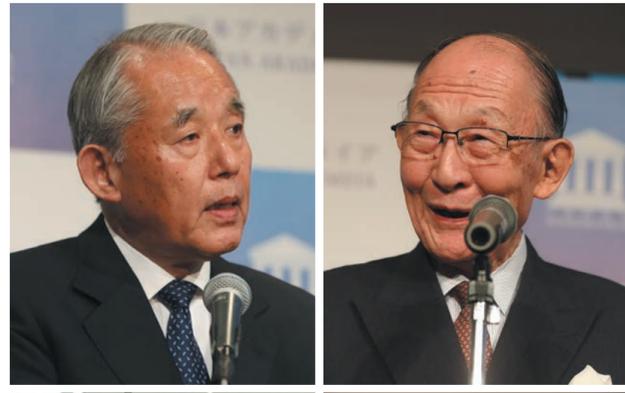
労働組合を母体とした失業保険の設立等を通じて、「夢を失わない失業」を実現し、国際競争力を高めたい!

「国際競争力～雇用と解雇の新しいかたち～」グループ



統計データの信頼性が失われている。調査方法のオンライン化、言語コードの公開、統計リテラシー向上を通じてEBPMを実現したい!

「EBPM(証拠に基づく政策立案)」グループ



### 初のダブル受賞! ジュニア・アカデミア賞(大賞)

産官学民がデータを提供しあう「生きた実験場」を地方につくり、世界を牽引するイノベーションを生み出したい!

「イノベーションの活力は『地方』にあり」グループ

日本アカデミアは3月19日、「第4期ジュニア・アカデミア政策提言発表会」を東京・赤坂のザ・キャピトルホテル東急で開催しました。昨年9月より半年間、9大学41名の志ある学生が、各界の識者による対話型の講義と並行して、大学混成の7グループに分かれ、日本が直面する解決困難な課題についての政策提言に取り組みました。提言作成にあたっては、若い世代の問題意識や発想を大切にすることを促した上で、研究テーマ・研究方法・発表内容についてはすべて学生達の選択に委ねました。

「イノベーションの活力は『地方』にあり」グループが大賞・佐々木賞の初の二冠  
茂木賞は「地銀を無視して地方創生あらず」グループが受賞

ジュニア・アカデミア賞 経済活性化に「なり、地銀自身の活路にもなる」と訴えたグループが選ばれました。指導教授賞には「自医療のAI診断システムを自ら開発する新しい医師「総合システム」様々なセクターが連携し、データを提供しあう「生きた実験場」が必要だが、それは東京のような大都市ではなく、信頼関係が生まれやすく、データ提供のメリットも感じやすい地方都市でも可能である」と述べ、銀行が地域産業の新陳代謝を促進することが真の地域

次代を創る人材づくり「ジュニア・アカデミア」  
長谷川校長は開会にあたり、「これまでの3期の活動で135名の若者がジュニア・アカデミアでの経験を糧に各界で活躍を始めています。次代の日本を切り開いていく姿を目指します。自分の未来を自分の責任で選び取る、本当の意味での主権者を育てるための国民運動にこれからもご期待ください。」

診療医」の新設・普及を通じて、医療費の抑制と医師の労働環境の改善を目指すことを提案したグループが選ばれました。

第4期ジュニア・アカデミア発表グループ別名簿 (2019年3月19日発表時点)

「イノベーションの活力は『地方』にあり」グループ

狩野見 泰兵	千葉大学法政経済学部法政経学科1年
木村 規順	上智大学総合人間科学部教育学科4年
島谷 薫乃	一橋大学大学院国際・公共政策教育専攻修士1年
細田 勇気	学習院大学法学部政治学科3年
山本 健太	上智大学大学院総合人間科学部教育専攻修士1年
山本 真央	お茶の水女子大学生活科学部心理学科1年

「EBPM(証拠に基づく政策立案)」グループ

伊藤 詩織	お茶の水女子大学教育学部人間社会科科学科4年
大田 遥香	東京大学公共政策大学院公共政策学専攻修士2年
尾谷 祐樹	東京大学文学部1類2年
須藤 駿斗	早稲田大学政治経済学部政治学科4年
中根 優里	学習院大学法学部政治学科3年
野呂 航平	東京大学法学部政治学科4年

「国際競争力～雇用と解雇の新しいかたち～」グループ

伊東 真琴	千葉大学法政経済学部法政経学科3年
小島 直起	一橋大学大学院国際・公共政策教育専攻修士2年

「誰もイノベーション人材になれる社会」グループ

小嶋 友輔	千葉大学法政経済学部法政経学科4年
中川 舞	早稲田大学政治経済学部国際政治経済学科3年
中山 雄太	一橋大学大学院国際・公共政策教育専攻修士1年
中南 咲希	学習院大学法学部政治学科3年
宮森 京加	津田塾大学総合政策学部総合政策学科1年
八代 慈瑛	千葉大学法政経済学部法政経学科2年

「地銀を無視して地方創生あらず」グループ

大木 菜生	慶應義塾大学法学部政治学科2年
大島 功唯	早稲田大学法学部2年
齋藤 中坑	慶應義塾大学商学部商学科4年
砂川 侑花	早稲田大学法学部3年
藤井 舞	東京大学公共政策大学院公共政策学専攻修士1年
森 松 奈々子	慶應義塾大学法学部法律学科2年

第4期「ジュニア・アカデミア」について 2019年3月19日現在

1.趣旨(創設:2015年10月1日)

- (1)人材を育てるとい「日本アカデミア」の設立当初からのミッションに基づき、志のある学生を対象に創設されました。
- (2)一方通行の講義ではなく、次の時代を担う学生が主体となって、日本が直面する解決困難な課題について学び、考えることを主眼としています。
- (3)日本の将来を担う人たちが育つ新しい「仕組みづくり」の中核層の育成を目指します。

2.指導教授陣(敬称略)

校長 長谷川 閑史	武田薬品工業相談役	指導教授 野中 尚人	学習院大学教授
教頭 谷口 将紀	東京大学教授	指導教授 古谷 修一	早稲田大学教授
運営教授 曾根 泰教	慶應義塾大学名誉教授	指導教授 小館 亮之	津田塾大学教授

3.運営概要

- (1)お茶の水女子大学、学習院大学、慶應義塾大学、上智大学、千葉大学、津田塾大学、東京大学、一橋大学、早稲田大学の学生有志41名で昨年9月に開講しました。
- (2)各界の識者による対話型の講義と並行して、学生は研究グループを自主的に編成し、各グループ単位で研究を行い、政策提言を作成しました。グループ編成にあたっては、同じ大学で固まらないことだけを条件とし、研究テーマ、研究方法、発表内容は学生たちに一任しました。

## 日本アカデミアについて

日本の政策を考える  
官民共通の基盤を再構築し、  
日本の公共を立て直すことを目的に、  
経済界、労働界、教育研究機関、  
学識者らにより  
2012年4月に設立されました。

体制(2019年4月現在)

〈共同塾頭・会員委員長・運営幹事〉(10名)

共同塾頭(常任) 牛尾 治朗	ウシオ電機取締役会長
共同塾頭(常任) 茂木 友三郎	キョーマン取締役名誉会長 取締役会議長
共同塾頭(常任) 佐々木 毅	元東京大学総長・明るい選挙推進協会会長
共同塾頭 神津 里季生	連合会長
共同塾頭 五神 真	東京大学総長
共同塾頭 田中 愛治	早稲田大学総長
共同塾頭 長谷山 彰	慶應義塾長
会員委員長 福川 伸次	地球産業文化研究所顧問・東洋大学総長
運営幹事 曾根 泰教	慶應義塾大学名誉教授
運営幹事 増田 寛也	東京大学大学院客員教授

上記メンバーおよび、経済界、労働界、学識者等約80名の有志により構成されています。

日本アカデミアの事務局は、公益財団法人日本生産性本部がつとめています。日本生産性本部は、経済界、労働界、学識者、消費者等各界の代表者によって構成され、2018年度からの中期運動目標「人口減少下の新たな生産性運動の基盤整備」のもと、労務の信頼と協力を基盤に、生産性をめぐる諸課題に取り組み、わが国経済社会の立て直しをはかる運動を展開しています。

主な活動

- 日本の将来に関する政治リーダーとの継続的な対話と合意形成  
政治リーダーの活動を支える環境を各界で整備するため、日本の長期ビジョンについて総理大臣や閣僚等との継続的な対話をを行い、日本の改革に向けた合意形成を目指しています。
- 産官学による日本と世界の長期ビジョンの検討とネットワークの立て直し  
産業界(経済界、労働界)、官界、学界の人的・知的ネットワークを立て直します。日本と世界の直面する基本的かつ重要な問題を取り上げ、垣根を超えた認識の共有化と問題解決に向けた検討を進めています。
- 次世代の人材育成  
次の時代の人材を担う人材の育成を目指します。経済界、労働界、官界の垣根を超えて交流し、日本が抱える諸課題とともに議論し、知恵を出し合う場づくりを進めています。その一環として、志ある学生が主体的に学び、考えるジュニア・アカデミアを運営しています。